

この「広報ひこね」は47,950部作成し、1部当たりの単価は10円(1円未満切り捨て)です。ただし、原稿作成・編集などにかかる職員の人件費は含まれていません。

## 連載企画 | 発見 彦根の文化財 第9回 | 伝統的建造物群の保存対策調査を行っています

彦根は、天守や櫓などの城郭施設や大名の居館であった御殿などとともに、武士や町人の住んだ城下町の面影が比較的良く残っています。このような伝統的な町並みも文化財として大切なものです。

「困教育委員会文化財課では、文化庁の補助を得て、こうした「伝統的建造物群」の保存対策調査を実施しています。今年度と来年度は、花しよぶ通りとその延長の通り、つまり河原一丁目・二丁目・三丁目と芹町の通りが調査の対象です。

この界隈は城下町の南端に位置しており、江戸時代には上河原町・安清町・芹新町と呼ばれる町屋でした。



▶ 芹町の伝統的な町並み

日用品を売る店の多いにぎやかな町だったようですが、今日でも伝統的建造物を用いた昔ながらの商いを垣間見ることが出来ます。

今回の調査では、滋賀県立大学の先生や学生に手伝いをしていたら、この通り沿いの伝統的建造物およそ70棟を対象に、1棟ずつ測量や聞き取りなどの調査を行っています。測量調査は、平面図と断面図を作成します。聞き取り調査は、当家の建物の歴史や所蔵されている資料などを尋ねて記録します。地道な作業の連続ですが、当家の皆さんの建物を守ってきた苦労と誇りを肌で感じる時もあります。

この調査は2年で終了し、成果を報告書として刊行します。その後は、地元の皆さんと協議を重ねながら「保存条例の制定」「保存地区の決定」「保存計画の策定および告示」など



▶ 聞き取り調査の様子



▲大学で図面を仕上げます

どを行います。そして文化庁に申請し、文化庁の文化審議会で審議されて文化財としての価値が高いと判断されると「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、文化庁の補助を得ながら保存計画に沿った修理・修景・防災事業などが実施されることとなります。

長期の計画になりますが、伝統的建造物群の保存を通して、地元のまちづくりに必要な息吹を呼び込むことができればと願っています。

### 皆さんへのお願い

彦根の城下町ゆかりの古写真や古図を探しています。今後のまちづくりの参考資料にしたいと考えていますので、お持ちの人はご連絡ください。

### 問い合わせ先

困教育委員会文化財課  
☎26-150003番 FAX 26-150006番  
Eメール: bunkazai@mx.hikone.ed.jp

## 表紙の写真

平成21年12月25日(金)に彦根城天守にそなえられ、1月3日(日)まで、公開されていた天守の鏡餅の鏡開きが行われました。

鏡餅は、大小2つで、大きい方は直径50cm、重さ15kg。小さい方は直径40cm、重さ10kg。

餅は、彦根城管理事務所の職員が切り分け、紙の小袋に2つずつ入れ、表門、大手門、黒門、玄宮園の4か所で無料で配られました。

### 人口と世帯数

平成22年1月1日現在

人口	111,665人 (- 8)
男	54,989人 (+ 11)
女	56,676人 (- 19)
世帯数	42,882世帯 (+ 14)

( )内は前月との比較



「広報ひこね」は、環境に配慮し再生紙を使用しています。また、揮発性有機化合物の発生を抑えた大豆油インキを使用しています。廃棄する場合には古紙回収に出してください。